法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-09-15

キャリア支援を考える ９ ： 職業世界の知識なしで職業観育成？

Kawakita, Takashi / 川喜多, 喬

(出版者 / Publisher)
教育新聞社
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
教育新聞 / 教育新聞
(号 / Number)
2578
(開始ページ / Start Page)
4
(終了ページ / End Page)
4
(発行年 / Year)
2005-11

Hosei University Repository

キャリア支援を考える --9

職業世界の知識なしで職業観育成?

法政大学キャリアデザイン学部教授 川喜多 喬

小学生、中学生ぐらいの相手では、職業観形成入門ぐらいでよろしい。しかし、これから就職する段階の学生相手の進路指導は、正確な職業世界の知識に立った指導が必要であろう。

職業知識の訓練の場にいたことがないキャリア支援者に、職業世界のことをどれだけ教えられると言うのだろうか。花形職業についてはときに政府の報告書が出たり、職業への資格づけが行われる際にも研究報告書が出されるが、私のように専門家ならともかく、現場のキャリア支援者が見ているかどうか、はなはだ疑わしい。

職業キャリアに関しては俗説ばかりである、とあえて言って差し支えはない。たとえば、今までの日本の企業はゼネラリストを育成してきたが、これからはスペシャリストが求められるなどと平気で言う者がいる。何でもできるゼネラリストなど組織人の中にほとんどいない。むしろ経理、法務、人事労務その他、いわゆる「畑」に特化して育てるのが普通である。

管理職にしていく者に複数専門分野をもたせることがあるが、決して「何でもできる」者などに育てはしない。一方、スペシャリストが求められ、また景気変動に強いだろうか。技術革新が進み、国際間分業が変化すれば、かつての専門家は不要になり、新しい専門家が台頭する。成長分野に不足しがちな専門家だって、そうか、その分野に特化すれば強いかと思いこんで供給が増えれば価値が下がる。

製造業の組み立て工程を一度、見学したぐらいで、工場現場では極端に分業が進み、労働者はロボットのごとく働かされていると平気で書く経済学者がいる。設備機械の保全、稼働率向上、品質改善に日々創意工夫をしながら知的熟練を深めていく現場労働者のほうが、大学の教員なんぞより勉強熱心だということを知らずに、経済学部は経済をちゃんと教えているからキャリア教育など加える必要がないと言う。

職業生活何十年を誇る人も、生徒や学生にキャリアを教えられるとは限らない（部下にだって教えることは難しい）。ある組織のある部門しか知らなければ、他の職業世界には俗説しかもたぬ可能性がある。

銀行では立派な人事課長であった方も、目の前に看護士になりたい、調理師になりたい、スポーツマネジメントをやりたいという学生が現れれば、どう答えるか。

キャリア支援の専門家の育成というと、面談相談カウンセリングの技法に限られるきらいがある。職業世界の研究をちゃんとやってもらいたいものだと思う。

職業世界の多様性と変動に関する知識の浅さを隠して、職業に就くのが大切だと教えればよいと言う者が多すぎる。知識をもたずしてともあれ就職させてしまえ、就職率をあげろ、と行動する者がキャリアプロフェッショナル扱いされるのは、嘆かわしい。

<AN10113317>「教育新聞―The educational news」No.2578/pp4/2005.11.3